

| 1-1 建物概要 | | | 1-2 外観 | | |
|------------|--------------------|--|----------|---------------------------|---------------|
| 建物名称 | 都城一万城町モデル | | 仕様等の確定状況 | 建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様 | 確定 仮 確定 |
| 竣工年月 | 2017年10月 | | 竣工 | | |
| 建設地 | 宮崎県都城市 | | | | |
| 用途地域 | 区域区分非設定 | | 確定 | | |
| 省エネルギー地域区分 | 6地域 | | | | |
| 構造・構法 | 在来軸組み工法 | | 確定 | | |
| 階数 | 1階 | | | | |
| 敷地面積 | 285 m ² | | 確定 | | |
| 建築面積 | 110 m ² | | 確定 | | |
| 延床面積 | 102 m ² | | | | |
| 世帯人数 | 4 | | 仮 | | |
| 評価の実施日 | 2018年3月2日 | | | | |
| 作成者 | 谷口 | | | | |
| 確認日 | 2018年3月17日 | | | | |
| 確認者 | 國賀 | | | | |



2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★★★★★

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

戸建標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q2 長く使い続ける

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 4.4

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア = 4.3

暑さ・寒さ 健康と安全・安心 明るさ 静かさ

Q2 長く使い続ける

Q2のスコア = 4.2

長寿命に対する 維持管理 機能性

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

Q3のスコア = 4.7

まちなみ・景観 生物環境の 地域の 地域の資源の活用

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア = 4.6

総合的な省エネ 水の節約 維持管理と運用の工夫

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア = 3.5

省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用 生産・施工段階における廃棄物削減 リサイクルの促進

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|---|---|---|
| <p>総合</p> <p>アイ・ホームの建売住宅として、住宅展示場としての側面も持つ建物とするため性能面では、設計性能評価の等級を積極的に上げるようにした。建築にあたっては建物本体はもちろんの事、外構も含めてトータルでの計画とした。</p> | | |
| <p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>室内環境を快適・健康・安心にするため、設計性能評価の基準をベースに設計した。断熱性能が等級4を超えるレベルにして、マッハシステムを導入することで暖冷房・換気に配慮した。</p> | <p>Q2 長く使い続ける</p> <p>長く使い続けるための対策も、設計性能評価の基準をベースに設計した。等級を上げつつ、メンテナンス性にも配慮した外壁・屋根材を使用した。</p> | <p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>建築にあたっては建物本体はもちろんの事、外構も含めてトータルでの計画とした。(建物・外構ともに外注でなく自社での施工とした)</p> <p>そのため、トータルでのまちなみ・景観への配慮が可能になった。</p> |
| <p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>建物の断熱性能をよくすると共に、節水・節湯の器具を積極的に使用した。またHEMSを導入し、お客様への説明資料で住まい手の意識を高めるようにした。</p> | <p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>宮崎は、杉の生産が多く地元の山林から取れた材を多く使用した。また、外装材や断熱材にリサイクルを意識したものを使用し施工段階でも、ごみが少なくなるように、また分別にも配慮した。</p> | <p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>雨水排水負荷の抑制に配慮した。敷地の地形や表土の保全に配慮した。地域の自生種を積極的に採用した。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (環境品質)、L: Load (環境負荷)、LR: Load Reduction (環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE_H、Q_H、LR_Hなどとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
 ■「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q_H2、LR_H1中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)
 ■ライフサイクルCO₂の算定条件等については、マニュアルおよび「CO₂計算」シートを参照されたい